

### ケンブリッジ英検とスピーキングテスト

ケンブリッジ英検は1913年に始まり、100年の歴史があります。スピーキングテストも開始当時は1時間かけてテストをしていましたが、その時代でベストと思われる形式へと改良を重ね進化を遂げてきました。現在では、キー(CEFRでA2レベル)からプロフィシエンシー(C2レベル)までスピーキングテストは対面式で、試験官2名と受験者2名で行う形式で実施されています。



試験官2名のうち1名は質問と全体評価を担当、もう1名は評価スケールごとに評価を行い、会話に加わることはありません。試験官とのやりとりだけでなく、受験者同士のやりとりを評価の対象とすることで、より実生活に近い環境でスピーキング力を測る工夫が施されています。以下、プレリミナリー・フォー・スクールズ(中級: B1)を例にご紹介します。

- パート1: 試験官は受験者にお互いを理解するための質問をする  
名前、名前の綴り、「学校で英語を勉強していますか?」「英語は好きですか?」等の質問を2名の受験者にする
- パート2: ある状況についてもう一人の受験者と会話する  
転校する友達に送るプレゼントとしてイラストのうちどれが良いか二人で相談して選ぶ(議論して決定するプロセス)
- パート3: 異なる写真が渡され、それを見て1分間相手に説明。ティーンエイジャーの寝室の写真について説明する。
- パート4: パート3のテーマについて議論しながら、再びもう一人の受験者と意見交換  
自分の寝室にあるものについてペアで話し合い、今後自分の寝室に欲しいものについて説明する。

ケンブリッジ英検の動画サイトCambridgeenglishtvでスピーキングテストの様子を閲覧できます: [www.youtube.com/user/cambridgeenglishtv](http://www.youtube.com/user/cambridgeenglishtv)

学習指導要領との関連性 4技能それぞれに高い親和性がみられますが、ここではスピーキングの例をご紹介します。

<p>高等学校学習指導要領 第8節外国語</p>	<p>ケンブリッジ英検 PET (CEFR: B1) 中高生対象 プレリミナリー・フォー・スクールズ</p>
<p>[言語の働きの例] a コミュニケーションを円滑にする: ・相づちを打つ・聞き直す・繰り返す ・言い換える・話題を進展させる・ 話題を変える、 など</p>	<p>質問役の試験官は全体評価のみ、もう一人の試験官は 1. Pronunciation (発音) 2. Grammar and Vocabulary (文法・語彙) 3. Interactive Communication (双方向コミュニケーション) 4. Discourse Management (談話マネージメント)の4つの評価スケールで、 試験官と受験者、受験者間でのやりとりを採点する。4.では、話す内容に論理的かつ首尾一貫性が見られるか、(coherence and cohesion)、関連性 (relevance)があるか、同じアイデアの繰り返し(repetition)ではなく、トピック を進展させる新しいアイデアの導入はあるか、などが評価項目になる。</p> <p>※ 3. Interactive Communication (双方向コミュニケーション)で評価される項目 ① Development of the interaction (積極的な会話の展開) ② Initiating &amp; Responding (会話のイニシアチブ、相手の発言への反応) ③ Prompting &amp; Supporting (相手の発言を引き出すスキル) ④ Turn and Simple exchange (会話の基本: 発話・応答の役割)</p>

受験者には、引き続き「結果ステートメント」と「認定証」が発行されます。どちらにも次の内容が記載されています。右は、2015年1月より試験フォーマットが変更されるアドバンスト(上級)の例です。

結果ステートメントには以下の情報が含まれます:

- ① ケンブリッジ英検スケールでの総合評価スコア
- ② 技能別(リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング)および文法・語彙問題の各スコア
- ③ 合格のグレード
- ④ CEFRレベル

さらにファースト、アドバンスト、プロフィシエンシーの認定証には、英国資格指標(NQF: UK National Qualifications Framework)のレベルも記載されます。



ケンブリッジ大学英語検定機構 日本支部  
Email: [info@cambridgeenglish.org.jp](mailto:info@cambridgeenglish.org.jp)  
Tel: 080-5545-8969 (日本支部代表)  
Fax: 050-1271-2735  
[www.cambridgeenglish.org](http://www.cambridgeenglish.org) (English)  
[www.cambridgeenglish.org/jp](http://www.cambridgeenglish.org/jp) (日本語)

- [www.cambridgeenglish.org](http://www.cambridgeenglish.org)
- [facebook.com/CambridgeEnglish](https://facebook.com/CambridgeEnglish)
- [youtube.com/CambridgeEnglishTV](https://youtube.com/CambridgeEnglishTV)
- [twitter.com/CambridgeEng](https://twitter.com/CambridgeEng)



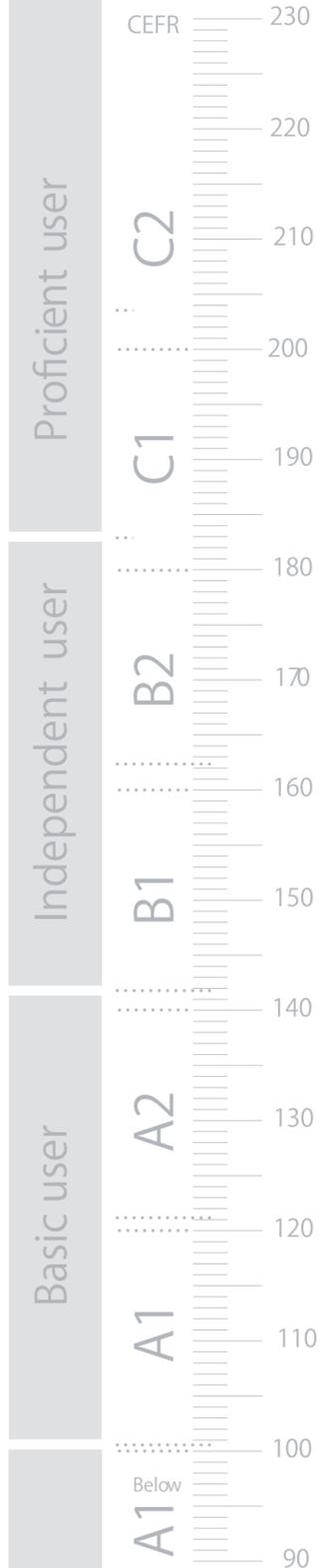
© UCLES 2014 | CE/3019/4Y09

\*5655092292\*

Result	Overall Score	CEFR Level
Pass at Grade B	195	C1

CEFR Level	Reading	Use of English	Writing	Listening	Speaking
C2	203				
C1	186		195	194	190
B2					

Results	Score
Pass at Grade A	200 – 210
Pass at Grade B	193 – 199
Pass at Grade C	180 – 192
Level B2	160 – 179



# Cambridge English

## ケンブリッジ英検とスケールスコアについて

The Cambridge English Scale explained

[www.cambridgeenglish.org](http://www.cambridgeenglish.org)

## CEFR と ケンブリッジ英検スケール

ヨーロッパ共通参照枠（CEFR：Common European Framework of Reference for Languages）\* の開発に深く関与した歴史的経緯から、ケンブリッジ英検はCEFRのレベルと整合性が高く、学習者が目標とするCEFRのレベルに到達しているかを判定する際の基準となるテストとして世界中で活用されています。

ケンブリッジ英検スケールのスコアは、従来の受験者プロフィール (candidate profile) と標準得点 (standardised scores) に代わるものです。グレードとCEFR レベルによる評価は受験結果として引き続き記載されます。言語の4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）および文法・語彙知識\*\*の成績が新スケール上にそれぞれスコア（80-230）で表示されるため、受験者はより詳しい情報を得ることができます。新スケール導入によりケンブリッジ英検の各試験やCEFRとの比較が分かり易くなります。

例えば、スコアが180-199ならばCEFRのC1レベルに相当します。つまりC1レベルで最も低い受験者のスコアは180になります。ファースト、アドバンスト、プロフィシエンシーの異なるレベルの試験で同じスコアの場合、学習到達度は同等とみなされますが、上級レベルの試験はより高度な認知プロセスと機能を網羅する出題となっている点にご留意下さい。
なお、スコアが180の場合、ファーストはグレードA、アドバンストはグレードCで合格ですが、プロフィシエンシーは不合格判定となりCEFRレベルのC1が認定証に記載されます。

\*：2001年にCouncil of Europe（欧州評議会）が発表した言語運用レベルの基準
\*\*：ファースト（上中級）以上の試験のみ文法・語彙知識に関する出題あり

<b>CEFRとケンブリッジ英検スケールスコア</b>	
<span></span>	<span></span>
ヨーロッパ共通参照枠CEFR	ケンブリッジ英検スケールのスコア
<b>C2</b>	200+
<b>C1</b>	180-199
<b>B2</b>	160-179
<b>B1</b>	140-159

### ケンブリッジ英検 キー・フォー・スクールズ（上初級 -CEFR: A2）でテストされる内容について\*\*\*（計 約1時間50分）

問題用紙の種類	内 容	測定されるスキル（出題意図）
<b>Reading &amp; Writing</b> リーディング&ライティング 1時間 10分 配点：全体の50%	「読む」「書く」テストには9つのパートがあり、出題方法は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>標識に説明文をマッチングさせる</li> <li>多肢選択式テスト</li> <li>最初の会話者への返答として適切な答えを選ぶ</li> <li>やや分量の多い会話文で適切な文章を選ぶ</li> <li>綴りの知識</li> <li>空所補充問題</li> <li>情報を転記するタスク</li> <li>問題の指示に従って書くタスク（25-35語程度）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>実生活に存在している標識や看板を理解する</li> <li>文章を理解して正しい単語を選ぶ</li> <li>文章を理解して正しい答えを選ぶ</li> <li>会話を正しい順番に並べる</li> <li>単語の正しい綴りがわかる</li> <li>正しい単語を選んで文章を完成させる</li> <li>欠けている単語を補充してメールや手紙を完成させる</li> <li>重要な情報を補充して文章を完成させる</li> <li>短いメモ、メールやはがきを書く</li></ul>
<b>Listening</b> リスニング 約 30分 配点：全体の25%	「聞く」テストには5つのパートがあり、出題方法は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>短いテキストを聞いて多肢選択式で答える</li> <li>「人」と「もの名前（名詞）」のリストをマッチングさせる</li> <li>会話を聞いて内容に合うものを多肢選択式で答える</li> <li>一人、もしくは二人で話している会話を聞いて解答用紙に欠けている単語を書き入れる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>短めの会話、長めの会話、話者一人の発言に含まれる重要な情報を聞きとる</li> <li>重要な情報を聞いて書きとめ、単語の綴りを正しく書く</li></ul>
<b>Speaking</b> スピーキング 約 8-10分 受験者2名のペアで受ける対面式テスト 配点：全体の25%	「話す」テストには2つのパートがあります。最初のパートで、試験官は受験者に「お互いを理解する」ための質問をします。次のパートでは、ペアを組んでいるもう一人の受験者と質疑応答をします。	<ul style="list-style-type: none"><li>自分に関する質問に答える</li> <li>カードを読み、欠けている情報を得るためにもう一人の受験者に質問する</li> <li>カードを読み、もう一人の受験者の質問に答える</li></ul>

<b>Reading &amp; Writing</b> リーディング&ライティング 1時間 30分 配点：全体の50%	「読む」テストには5つのパートがあり、出題方法は次の通りです。 <ul style="list-style-type: none"><li>5つの短文に関する質問について、多肢選択式テスト</li> <li>短文と人に関する記述をマッチングさせる</li> <li>長めの文章に関する正誤問題に答える</li> <li>長文を読み、作者の考えなど、さまざまな事柄に関する理解度を測る多肢選択式テスト</li> <li>多肢選択式の空所補充型問題（空所のあるテキストについて正しい選択肢を選んで空所をそれぞれ補充していく問題）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>要点を読み取る</li> <li>特定の情報を探し出して詳しい情報を読み取る</li> <li>作者の目的、態度、意見について理解する</li> <li>概略、推測、全体の意味を読み取る</li> <li>短文の語彙や文法を理解する</li></ul>
<b>Listening</b> リスニング 約 30分 配分：全体の25%	「聞く」テストには4つのパートがあり、出題方法は次の通りです。 <ul style="list-style-type: none"><li>短文テキスト、さらに長めのモノローグ（一人が話す独白形式のもの）かインタビューを聞き多肢選択式問題に答える</li> <li>モノローグを聞きながら穴埋めテストを完成させる</li> <li>（二人の話者による）会話に関する正誤問題に答える</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>短文の主要な情報と、長い会話文とモノローグを聞き取る</li> <li>詳しい意味を聞いて話者の態度や意見を識別する</li></ul>
<b>Speaking</b> スピーキング 約 10-12分 受験者2名のペアで受ける対面式テスト 配点：全体の25%	「話す」テストには4つのパートがあります。出題方法は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>パート1では、試験官は受験者に「お互いを理解する」ための質問をする。</li> <li>パート2では、ある状況についてもう一人の受験者と会話をする。</li> <li>パート3では、受験者は写真を見てさらに長い時間話すことが求められる。</li> <li>パート4では、パート3のテーマについて議論しながら、再びもう一人の受験者と意見を交わす。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>受験者の現在の状況、過去の経験、そして将来の計画について議論する</li> <li>ある状況について、パートナーと話し合う</li> <li>写真について長い時間説明する</li> <li>好きなもの、嫌いなもの、お気に入りしたこと、習慣について話をする</li></ul>

### ケンブリッジ英検 プレリミナリー・フォー・スクールズ（中級 -CEFR: B1）でテストされる内容について\*\*\*（計 約2時間12分）

問題用紙の種類	内 容	測定されるスキル（出題意図）
<b>Reading &amp; Writing</b> リーディング&ライティング 1時間 30分 配点：全体の50%	「読む」テストには5つのパートがあり、出題方法は次の通りです。 <ul style="list-style-type: none"><li>5つの短文に関する質問について、多肢選択式テスト</li> <li>短文と人に関する記述をマッチングさせる</li> <li>長めの文章に関する正誤問題に答える</li> <li>長文を読み、作者の考えなど、さまざまな事柄に関する理解度を測る多肢選択式テスト</li> <li>多肢選択式の空所補充型問題（空所のあるテキストについて正しい選択肢を選んで空所をそれぞれ補充していく問題）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>要点を読み取る</li> <li>特定の情報を探し出して詳しい情報を読み取る</li> <li>作者の目的、態度、意見について理解する</li> <li>概略、推測、全体の意味を読み取る</li> <li>短文の語彙や文法を理解する</li></ul>
<b>Listening</b> リスニング 約 30分 配分：全体の25%	「聞く」テストには4つのパートがあり、出題方法は次の通りです。 <ul style="list-style-type: none"><li>短文テキスト、さらに長めのモノローグ（一人が話す独白形式のもの）かインタビューを聞き多肢選択式問題に答える</li> <li>モノローグを聞きながら穴埋めテストを完成させる</li> <li>（二人の話者による）会話に関する正誤問題に答える</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>短文の主要な情報と、長い会話文とモノローグを聞き取る</li> <li>詳しい意味を聞いて話者の態度や意見を識別する</li></ul>
<b>Speaking</b> スピーキング 約 10-12分 受験者2名のペアで受ける対面式テスト 配点：全体の25%	「話す」テストには4つのパートがあります。出題方法は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>パート1では、試験官は受験者に「お互いを理解する」ための質問をする。</li> <li>パート2では、ある状況についてもう一人の受験者と会話をする。</li> <li>パート3では、受験者は写真を見てさらに長い時間話すことが求められる。</li> <li>パート4では、パート3のテーマについて議論しながら、再びもう一人の受験者と意見を交わす。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>受験者の現在の状況、過去の経験、そして将来の計画について議論する</li> <li>ある状況について、パートナーと話し合う</li> <li>写真について長い時間説明する</li> <li>好きなもの、嫌いなもの、お気に入りしたこと、習慣について話をする</li></ul>

\*\*\*：中高校生対象のケンブリッジ英検である「キー・フォー・スクールズ」、「プレリミナリー・フォー・スクールズ」、「ファースト・フォー・スクールズ」は、成人学習者を対象とするケンブリッジ英検の「キー」「プレリミナリー」「ファースト」と同じ形式かつレベルのテストですが、中高生の経験および関心に対応しており、中高生の受験者に配慮したより適切な試験内容になっています。

### ケンブリッジ英検スケールと各試験のスコア比較表

<b>ヨーロッパ共通参照枠（CEFR）</b>	<b>ケンブリッジ英検スケールスコア</b>	<b>キー（KET）上初級</b>	<b>プレリミナリー（PET）中級</b>	<b>ファースト（FCE）上中級</b>	<b>アドバンスト（CAE）上級</b>	<b>プロフィシエンシー（CPE）特上級</b>	<b>アイエルツ（IELTS）</b>	<b>ケンブリッジ英検スケールスコア</b>	
<b>熟達した言語使用者</b>	230	★ケンブリッジ英検スケールで測定可能なスコア範囲					★162 – 230		230
	220						グレード A		220
	210						グレード B		210
	200						グレード C		200
	190						★142 – 210	9.0	190
<b>自立した言語使用者</b>	180						グレード A	8.5	180
	170						グレード B	8.0	170
	160						グレード C	7.5	160
	150						レベル B2	6.5	150
	140						レベル B1	6.0	140
<b>基礎段階の言語使用者</b>	130						レベル B2	5.5	130
	120						レベル B1	5.0	120
	110						レベル A2	4.5	110
	100						レベル A1	4.0	100
	90						レベル A1		90
	80						レベル A1		80
	<b>アイエルツ（IELTS）のバンドスコアとケンブリッジ英検のスケールスコア比較</b>								
		<b>アイエルツ（IELTS）バンド・スコア</b>			<b>ケンブリッジ英検スケールのスコア</b>				
		9.0			209+				
		8.5			205-208				
	8.0			200-204					
	7.5			191-199					
	7.0			185-190					
	6.5			176-184					
	6.0			169-175					
	5.5			162-168					
	5.0			154-161					
	4.5			147-153					
	4.0			142-146					

### ケンブリッジ英検 ファースト・フォー・スクールズ（上中級 -CEFR: B2）でテストされる内容について\*\*\*（計 約3時間29分）

問題用紙の種類	内 容	測定されるスキル（出題意図）
<b>Reading</b> リーディング & Use of English 文法・語彙 1時間 15分 配点：全体の40%	パート1：空所補充問題8問。選択肢から答えを選ぶ。 <p>パート2：穴埋め問題8問。</p> <p>パート3：空所補充問題8問。語幹が与えられ、必要に応じて変化させて答える。</p> <p>パート4：導入文と同じ意味になるように2-5語で文章を書き換える空所補充問題6問。</p> <p>パート5：読解問題6問。4つの選択肢から選んで答える。</p> <p>パート6：読解問題6問。文中から抽出された6文を元の位置に戻す作業。余分な文章が1文追加され、7文与えられている。</p> <p>パート7：各設問に該当する長文あるいは複数の短文テキストの多重マッチング問題10問。中高生にとって興味深いトピックに関するさまざまなテキストが出題されている。</p>	読解力と文法及び語彙の知識のうち、 <ul style="list-style-type: none"><li>豊富な文法と語彙力をうまく使えるか</li> <li>テキストの詳細まで読み込んだり、意見や感情、テキストの構成や主題を理解する豊富な読解力を有しているかをテストする。</li> <li>また、概要をつかむ速読力も求められる。</li></ul>
<b>Writing</b> ライティング 1時間 20分 配点：全体の20%	パート1は必修問題。与えられたアイデアと自分のアイデアを用いて140-190語のエッセイを書く。 <p>パート2では、記事、メール、手紙、エッセイ、書評、物語など、4つの選択肢から1つ選んで140-190語で書く。（課題図書含む）</p>	内容、コミュニケーションの達成度（適切に内容を伝えているか）、構成、ことば（語彙と文法）の評価基準に照らして採点。
<b>Listening</b> リスニング 約 40分 配点：全体の20%	パート1：それぞれ独立した内容のモノローグあるいは会話文が8問出題される。選択肢から正しい内容を選んで答える。 <p>パート2：モノローグを聞いて適切な単語やフレーズを補充して10文完成させる。</p> <p>パート3：関連する5つの短いモノローグを聞いて、選択肢から正しい内容を選んで5つの問題に答える。不要な選択肢あり。</p> <p>パート4：インタビュー、もしくは二人の会話文を聞いて選択肢から正しい内容を選んで7つの問題に答える。</p>	実生活で使える「英語を聞く力」について測る。全テキストの概要、情報や意見、詳細情報をとらえる力をテストする。
<b>Speaking</b> スピーキング 14分 受験者2名のペアで受ける対面式テスト 配点：全体の20%	パート1：試験官と各受験者間で簡単な自己紹介等のやりとりをする。 <p>パート2：試験官が示す2枚の写真を見て各受験者が自分の言葉で約1分間説明する。その後写真の内容について試験官がもう一人の受験者に質問をする。</p> <p>パート3：もう一人の受験者とともに互いの意見を調整して意思決定するタスクを行う。</p> <p>パート4：パート3のタスクに関連したトピックについて議論する。</p>	発音、文法および語彙の駆使力、自分の意見をまとめる能力、いかにうまく議論に参加しているかなど、さまざまな側面についてテストする。

2014年12月までReading（リーディング）とUse of English（文法・語彙）は別々に実施されていますが、2015年1月より上記のとおり統合して実施。

## 認定証が発行されるスコア範囲

ケンブリッジ英検スケールの図表中★で示されているスコア範囲には、認定証が発行されないスコアも含まれています。例えば、ファースト・フォー・スクールズでは、スコアが160-190の場合は合格のグレードと「Council of Europe（欧州評議会）レベルB2」が記載されます。140-159の場合は不合格になりますが、レベルB1とCEFRレベルが記載されるので英語力の証明にお使いいただくことが可能です。スコアが122-139の場合は結果ステートメントにスコアは記載されますが、認定証の発行はありません。

<b>Reading</b> リーディング & Use of English 文法・語彙 1時間 30分 配点：全体の40%	パート1-3：テキストに基づく出題で、多肢選択問題8問、穴埋め問題8問、語幹が与えられ適切に変化させて答える空所補充問題8問。 <p>パート4：導入文と同じ意味になるように3-6語で文章を書き換える空所補充問題6問。</p> <p>パート5：読解問題6問。4つの選択肢から選んで答える。</p> <p>パート6：4つの短文に関する多重マッチング問題。</p> <p>パート7：読解問題6問。文中から抽出された6つの段落を元の位置に戻す作業。余分な段落が1つ追加され、7段落が選択肢として与えられている。</p> <p>パート8：各設問に該当する長文または複数の短文テキストの多重マッチング問題10問。テキストは専門的なものではなく、フィクションあるいはノンフィクションの題材。本質的にアカデミックなものが多く出題される。</p>	読解力と文法および語彙の基本的知識をテストする。
<b>Writing</b> ライティング 1時間 30分 配点：全体の20%	パート1は必修問題。問題文にある2つのポイントに基づいて220-260語でエッセイを書く。より重要なのはどのポイントか、そしてその主張を支える根拠について説明する。 <p>パート2では、手紙、提案書、報告書、書評（批評）等、3つの選択肢から1つ選んで220-260語で書く。簡潔な文脈、トピック、目的、対象となる読者等がチェックされる。</p>	内容、コミュニケーションの達成度（適切に内容を伝えているか）、構成、ことば（語彙と文法）の評価基準に照らして採点。
<b>Listening</b> リスニング 約 40分 配点：全体の20%	4つのパートに分かれており計30問。短い抽出文や長いモノローグ、インタビューもしくはディスカッション、特定のテーマに関するモノローグを聞いて答える。多肢選択問題、適切な単語やフレーズを補充して文章を完成させる問題や多重マッチング問題からなる。	実生活で使える「英語を聞く力」について広く測る。抽出文全体の概要、特定の情報、話者の意見や態度、感情等をとらえる力をテストする。
<b>Speaking</b> スピーキング 15分 受験者2名のペアで受ける対面式テスト 配点：全体の20%	パート1：試験官と各受験者間で簡単な自己紹介等のやりとりをする。 <p>パート2：試験官が示す写真を見て受験者が自分の言葉で約1分間説明する。その後写真の内容について試験官がもう一人の受験者に質問をする。</p> <p>パート3：写真にまつわる情報や質問が記載されたカードが試験官より渡され、それをもとに受験者間でディスカッションを行う。</p> <p>パート4：パート3のトピックに関連して、自分の意見の正当性を説明したり、前のパートよりさらに深い議論を行う。</p>	文法・語彙力のほか、発音、自分の意見をまとめる能力、議論を始める力や持続させる力、交渉して結論に達する力等、多くの項目がテストされる。

### ケンブリッジ英検 アドバンスト（上級 -CEFR: C1）でテストされる内容について（計 約3時間55分）

問題用紙の種類	内 容	測定されるスキル（出題意図）
<b>Reading</b> リーディング & Use of English 文法・語彙 1時間 30分 配点：全体の40%	パート1-3：テキストに基づく出題で、多肢選択問題8問、穴埋め問題8問、語幹が与えられ適切に変化させて答える空所補充問題8問。 <p>パート4：導入文と同じ意味になるように3-6語で文章を書き換える空所補充問題6問。</p> <p>パート5：読解問題6問。4つの選択肢から選んで答える。</p> <p>パート6：4つの短文に関する多重マッチング問題。</p> <p>パート7：読解問題6問。文中から抽出された6つの段落を元の位置に戻す作業。余分な段落が1つ追加され、7段落が選択肢として与えられている。</p> <p>パート8：各設問に該当する長文または複数の短文テキストの多重マッチング問題10問。テキストは専門的なものではなく、フィクションあるいはノンフィクションの題材。本質的にアカデミックなものが多く出題される。</p>	読解力と文法および語彙の基本的知識をテストする。
<b>Writing</b> ライティング 1時間 30分 配点：全体の20%	パート1は必修問題。問題文にある2つのポイントに基づいて220-260語でエッセイを書く。より重要なのはどのポイントか、そしてその主張を支える根拠について説明する。 <p>パート2では、手紙、提案書、報告書、書評（批評）等、3つの選択肢から1つ選んで220-260語で書く。簡潔な文脈、トピック、目的、対象となる読者等がチェックされる。</p>	内容、コミュニケーションの達成度（適切に内容を伝えているか）、構成、ことば（語彙と文法）の評価基準に照らして採点。
<b>Listening</b> リスニング 約 40分 配点：全体の20%	4つのパートに分かれており計30問。短い抽出文や長いモノローグ、インタビューもしくはディスカッション、特定のテーマに関するモノローグを聞いて答える。多肢選択問題、適切な単語やフレーズを補充して文章を完成させる問題や多重マッチング問題からなる。	実生活で使える「英語を聞く力」について広く測る。抽出文全体の概要、特定の情報、話者の意見や態度、感情等をとらえる力をテストする。
<b>Speaking</b> スピーキング 15分 受験者2名のペアで受ける対面式テスト 配点：全体の20%	パート1：試験官と各受験者間で簡単な自己紹介等のやりとりをする。 <p>パート2：試験官が示す写真を見て受験者が自分の言葉で約1分間説明する。その後写真の内容について試験官がもう一人の受験者に質問をする。</p> <p>パート3：写真にまつわる情報や質問が記載されたカードが試験官より渡され、それをもとに受験者間でディスカッションを行う。</p> <p>パート4：パート3のトピックに関連して、自分の意見の正当性を説明したり、前のパートよりさらに深い議論を行う。</p>	文法・語彙力のほか、発音、自分の意見をまとめる能力、議論を始める力や持続させる力、交渉して結論に達する力等、多くの項目がテストされる。

2014年12月までReading（リーディング）とUse of English（文法・語彙）は別々に実施されていますが、2015年1月より上記のとおり統合して実施。

<b>Reading</b> リーディング & Use of English 文法・語彙 1時間 30分 配点：全体の40%	パート1-3：文法・語彙問題で空所補充問題（多肢選択式、記述式各8問）、語幹から適切に変化させて答える問題8問。 <p>パート4：テキストに基づく問題ではなく、与えられた単語を変化させずに用いて、導入文と同じ意味になるように3 - 8語で文章を書き換える問題6問。</p> <p>パート5-7：長めの読解問題3問。多肢選択式問題、空所補充（段落）、多重マッチング問題。テキストは専門性の高い読者を対象としたものではなく、実生活で興味深いと思われる内容をトピックに取り上げている。誰もが関心を持つ話題、学術的な傾向のもの、ビジネスに関連した内容など。</p>	読解力と文法知識。主にパート1は語彙、パート2は文法、パート3はいかに接辞が語形成に影響を与えるかについて問う。パラフレーズや文脈から意味をとらえる等のサブスキルが必要となる問題。かなり詳細まで読み込み読解スキルが求められる。例えば、議論や一貫性、結合を理解しているか、特定の情報を探したり、スキム・リーディング（斜め読み）など。
<b>Writing</b> ライティング 1時間 30分 配点：全体の20%	パート1は必修問題。2つの短文（約100語）を読んで主要な意見をまとめて240 - 280語でエッセイを書く。 <p>パート2は、記事、手紙、報告書、エッセイ、書評（課題図書含む）の5つの選択肢から1つ選んで280 - 320語で書く。</p>	あるトピックについて上手く意見をまとめて発展させることができるか、文章を通して読み手に深い印象を与えられるか、言葉の用い方、書き課題の目的をどれほど上手く達成しているかについてテストされる。
<b>Listening</b> リスニング 40分 配点：全体の20%	パート1：3つの短い抽出文を聞き2問ずつ3つの選択肢から選ぶ。6問。 <p>パート2：3 - 4分間のモノローグを聞き適切な単語やフレーズを補充して9つの文章を完成させる。</p> <p>パート3：3 - 4分間にわたる会話を聞き4つの選択肢から選ぶ。</p> <p>パート4：モノローグ（各約35秒）を聞いて多重マッチング問題10問に答える。</p> <p>（ここで扱うことばは）ビジネス・シーンや大学で據するものであったり、通りを歩いていて遭遇する種類のものであるかもしれないなど、多岐に渡っている。</p>	実生活で使える「英語を聞く力」について広く測る。抽出文全体の概要、特定のトピックに関する詳細情報、話者の意見等をとらえる力をテストする。
<b>Speaking</b> スピーキング 16分 受験者2名のペアで受ける対面式テスト 配点：全体の20%	パート1：試験官と各受験者間で簡単な自己紹介等のやりとりをする。 <p>パート2：もう一人の受験者とともに試験官が示す写真に関するタスクに取組む。</p> <p>パート3：写真にまつわる情報や質問が記載されたカードが試験官より渡され、受験者はそれぞれ自分の考えを述べる。その後、その実生活に関連したテーマについて、試験官、受験者の3者間でディスカッションを行う。</p>	発音、抑揚、発話のスピード、自分の意見をまとめる能力、交渉力、議論を持続させる力等、多くの項目がテストされる。

### ケンブリッジ英検 プロフィシエンシー（特上級 -CEFR: C2）でテストされる内容について（計 約3時間56分）

プロフィシエンシー（CPE：特上級レベル）は、1913年に開始された歴史ある英語運用能力テストで、CEFRのC2レベルに相当する最高峰のテストです。100周年を迎えた2013年に、それまで別々に実施されていた「リーディング」と「文法・語彙」が統合され、以下のフォーマットに変更されました。

問題用紙の種類	内 容	測定されるスキル（出題意図）
<b>Reading</b> リーディング & Use of English 文法・語彙 1時間 30分 配点：全体の40%	パート1-3：文法・語彙問題で空所補充問題（多肢選択式、記述式各8問）、語幹から適切に変化させて答える問題8問。 <p>パート4：テキストに基づく問題ではなく、与えられた単語を変化させずに用いて、導入文と同じ意味になるように3 - 8語で文章を書き換える問題6問。</p> <p>パート5-7：長めの読解問題3問。多肢選択式問題、空所補充（段落）、多重マッチング問題。テキストは専門性の高い読者を対象としたものではなく、実生活で興味深いと思われる内容をトピックに取り上げている。誰もが関心を持つ話題、学術的な傾向のもの、ビジネスに関連した内容など。</p>	読解力と文法及び語彙の知識のうち、 <ul style="list-style-type: none"><li>豊富な文法と語彙力をうまく使えるか</li> <li>テキストの詳細まで読み込んだり、意見や感情、テキストの構成や主題を理解する豊富な読解力を有しているかをテストする。</li> <li>また、概要をつかむ速読力も求められる。</li></ul>
<b>Writing</b> ライティング 1時間 30分 配点：全体の20%	パート1は必修問題。2つの短文（約100語）を読んで主要な意見をまとめて240 - 280語でエッセイを書く。 <p>パート2は、記事、手紙、報告書、エッセイ、書評（課題図書含む）の5つの選択肢から1つ選んで280 - 320語で書く。</p>	内容、コミュニケーションの達成度（適切に内容を伝えているか）、構成、ことば（語彙と文法）の評価基準に照らして採点。
<b>Listening</b> リスニング 40分 配点：全体の20%	パート1：3つの短い抽出文を聞き2問ずつ3つの選択肢から選ぶ。6問。 <p>パート2：3 - 4分間のモノローグを聞き適切な単語やフレーズを補充して9つの文章を完成させる。</p> <p>パート3：3 - 4分間にわたる会話を聞き4つの選択肢から選ぶ。</p> <p>パート4：モノローグ（各約35秒）を聞いて多重マッチング問題10問に答える。</p> <p>（ここで扱うことばは）ビジネス・シーンや大学で據するものであったり、通りを歩いていて遭遇する種類のものであるかもしれないなど、多岐に渡っている。</p>	実生活で使える「英語を聞く力」について広く測る。抽出文全体の概要、特定のトピックに関する詳細情報、話者の意見等をとらえる力をテストする。
<b>Speaking</b> スピーキング 16分 受験者2名のペアで受ける対面式テスト 配点：全体の20%	パート1：試験官と各受験者間で簡単な自己紹介等のやりとりをする。 <p>パート2：もう一人の受験者とともに試験官が示す写真に関するタスクに取組む。</p> <p>パート3：写真にまつわる情報や質問が記載されたカードが試験官より渡され、受験者はそれぞれ自分の考えを述べる。その後、その実生活に関連したテーマについて、試験官、受験者の3者間でディスカッションを行う。</p>	発音、抑揚、発話のスピード、自分の意見をまとめる能力、交渉力、議論を持続させる力等、多くの項目がテストされる。